

菊池隆さん

③

地震の揺れが収まった後、夜7時ごろから福祉課長の菊池隆さんは障害者施設や高齢者施設がどうなっているか確認するため、ライトを点灯させて同僚と2人で市街地へと向かった。

施設では、入所者がホールなどに避難していた。無事だった。ある程度の食料を備蓄していることもわかったが、電源や燃料がない施設もあった。

県沿岸広域振興局に戻ると、釜石市職員が旧釜石一中の体育館に避難している赤ちゃん用のミルクがほしいと言ってきた。県の薬剤師と一緒に市内のドラッグストア数軒を回り、在庫のある店を見つ

非情の雪に妻の辛苦思ふ

けた。県への届け出書類から店長の住所を割り出し、直接自宅を訪ねて提供を要請した。ミルクやおむつを購入し、スーパーでパンやカップ麺などの食料も買い込んだ。それらを車に積み、避難所の中学校体育館に向かった。

道すがら、市職員から「これを食べてがんばりましょう」と、1本のバナナが差し出された。一生忘れられない味となった。

道端には、津波で流された車があちこちにあった。支援物資を届けると庁舎に戻り、避難者対応にあたった。ほとんど眠らず迎えた12日明け方は雪だった。非情の雪に、被災者とまだ安否がわからない妻みつよさんの辛苦を思った。

(斎藤徹)